

虚子記念文学館投句特選句・令和六年十二月

稲畑廣太郎 選

汀子師は在さず掃かれし冬の庭

新潟 安原 葉

数へ日の刻の隙間を虚子館へ

兵庫 玉手のり子

暁光に透ける細身の冬木立

兵庫 高野さち

漱石忌虚子の机にホトトギス

兵庫 藤井啓子

庭に刻過ぎゆくままに十二月

香川 三好ようこ

師を語るために母校へ冬紅葉

神奈川 進藤剛至

ひと握りほどの日向に冬の蝶

兵庫 小柴智子

返り花散る時命透きとほる

岡山 石井宏幸

ぺこと消えぽこと尻出すかいつぶり

大阪 椋本望生

ひかえめに分数わすれ大かぶら

滋賀 太田 慈

(青少年)

入選句・令和六年十二月

銭湯の湯船狭しや冬至風呂	埼玉	小田毬藻	特選に憂さは消えけり納句座	兵庫	森岡喜恵子
卓上にやはき米粒冬浅き	三重	水越晴子	冬の堂静謐極む弥陀三尊	大阪	藤本公子
冬になり待ちどおしいは初雪よ	広島	森田美裕	冬の雲割りて夕日の落ちにけり	奈良	堀田建夫
商戦はポインセチアを飾るより	大阪	河辺さち子	日に映ゆる紅葉や山を眠らせず	兵庫	川村ひろみ
幸せの予感ポインセチアの赤	京都	前悦子	時雨空抜け来て晴れの芦屋句座	石川	白根寿子
その窓辺ポインセチアの指定席	大阪	須知香代子	手を繋ぐ革手袋の赤と黒	兵庫	谷本逸歩
粕汁の上手な嫁の来てくれし	兵庫	池田文子	櫓の火と対話せし如独り言つ	大阪	若林友子
海と云ふ大きな器冬霞	京都	西村やすし	凧や背ナを丸めし影法師	奈良	河村久美子
ポインセチア点滴液の影あをき	大阪	押見げげげ	冬霞汽笛交はしてすれ違ふ	大阪	立入宮子
真知子巻てふ頬被君の名は	三重	池本準一	冬の星街の喧騒遠ざけし	大阪	ふじもと言果
天鷲絨のやうな青首鴨の群	石川	辰巳昌彦	鳴動の眠ることなきキラウエア	兵庫	上岡あきら
お洒落行き交ふ居留地の落葉道	大阪	徳永由起子	記念樹の枯木となりし枝の数	大阪	谷本房子
深み来て鴨逆立ちの円舞かな	香川	藤田敦雄	北窓を塞ぎますます地獄耳	大阪	北上美佐子
芦屋川流れ乏しき枯葎	大阪	徳岡美祢子	乗り越えて得る句の道や笹鳴ける	兵庫	山之口倫子
新聞を解き焼藪のほつかほか	大阪	多田羅紀子	冬晴や人待つやうに館の句碑	愛知	中野ひろみ
数へ日の指折る幼おぼつかな	兵庫	前田容宏	六甲の風のパノラマ銀杏散る	兵庫	黒田千賀子
過去追はず明日に生きんと日記果つ	大阪	林曜子	段取りも書き込むつもり日記買ふ	兵庫	小林昌子
黒門の雑多なにほひ冬ぬくし	大阪	奥野千草	逝きたれど今も頭上に冬の星	兵庫	宮本露子
黄昏れて宵の明星冬の星	三重	中島庸子	冬の虹比良の山裾大きくす	兵庫	小川孝子
昨夜の風庭敷き詰めし柿落葉	兵庫	細田清子	ご多忙か欠席数多納め句座	愛知	海神瑠珂
数へ日の朝まで灯る母の部屋	三重	松村咲子	空風のねぢれし夜を海の啼く	兵庫	中村恵美
細き目は心映さず冬の星	兵庫	槌橋眞美	人居らぬ淡海や鴨の別天地	兵庫	高橋純子
摩耶六甲指呼に句思案冬ぬくし	大阪	田中靖子	雑炊や言ひたきことはまた次に	兵庫	永沢達明
直撃す小春日和の紫外線	埼玉	木村友理枝	笹鳴を背に孫の背を追ふてをり	鳥取	前田千
駅前に托鉢僧や町師走	奈良	堀田ますみ	黒といふ華やぎの色冬薔薇	兵庫	涌羅由美

横着が身につく生活足温め	大阪	西尾浩子	三十年同じデザイン日記買ふ	兵庫	三木雅子
亡き父の珈琲の染み足温め	香川	葛原由起	柚子湯してほんのり髪に香を移し	兵庫	道中義臣
空風に不運一気に塗り変はる	兵庫	河野ひろみ	咳一つ闇に響けり夫の留守	兵庫	松本 敬
一句投ぜん短日の館へ入る	鳥取	棕 誠一朗	冬銀河釣糸垂らす君の影	滋賀	近江堇花
短日の予定は変はるものとして	兵庫	深尾真理子	舞妓らの簪熱し足揃	兵庫	風待ラテ
週末の館に師走の波動かな	兵庫	奥田好子	東山眠り祇園の眠らざる	兵庫	岩鼻絹子
顔見世や艶と貫禄仁左衛門	徳島	多田まさ子	蘭草や枯れ切つて知る香の威力	兵庫	北井真有美
冬座敷開けてゆかりの庭を見せ	京都	山崎貴子	冬風の夕日へかもめ向き揃へ	兵庫	二瓶美奈子
短日や一ト息で過ぐ夫の留守	石川	辰巳葉流	村人に新たな歩み雪の朝	兵庫	西村みどり
良く知りて家猫寄り来足温め	京都	木村直子	戦艦に手合わす十二月八日	京都	杉森大介
冬の日に暖められて納め句座	兵庫	辻田あづき	小春日の風よ見出しのない絵本	静岡	いたまき芯
白鳥の夕日をたたむ湖上かな	兵庫	池田雅かず	手を打てば凍る大気の解けけり	奈良	堀ノ内和夫
さわさわと風の存問枯葉散る	兵庫	岸川佐江	小石積む枯野は神の社なり	兵庫	高市敦之
薪くべてホットワインと冬の星	兵庫	藤丸千香子	聖夜餐終へて見に出る奇し星	兵庫	恵島祥一朗
運命を占ひ終へし冬の水	兵庫	吉村玲子	よおの手をおおと返して焚き火の輪	兵庫	岩水ひとみ
落葉踏む音に重なる子等の声	鳥取	棕 則子	ストーブに身の上話昇華せり	兵庫	伊集院秀樹
落雁のほろと解けて冬紅葉	兵庫	辻 桂湖	冬木立車内にイパネマの娘	熊本	貴田雄介
木枯らしが横髪揺るがす季節かな	香川	大好郁香	クリスマス電飾の樹も踊り出し	和歌山	中島紀生
雪を踏む音に重なる浅漬さん	岡山	松田真由子	窓際にポインセチアの薄灯り	兵庫	太平楽太郎
空の奥へ泥ごとラグビーボール蹴る	兵庫	塩見恵介	初写真一族並ぶ太鼓橋	愛媛	星月彩也華
走りゆく銀輪のベル冬木立	兵庫	足立朱麻	鈴の緒の振り強くして神の留守	神奈川	金子三奈乃
家計簿の横にいつもの日記買ふ	兵庫	西尾登志子	虚子館の庭に俳磚日向ぼこ	兵庫	阿曾宏之
花枇杷や俳話をしかと聴いてをり	兵庫	山口弘子	鍵善に干菓子詠ふ年の暮	兵庫	キートスばんじょうし
柚湯の香抱き寝息の子供部屋	兵庫	大西美知子	全山の冬芽揃ひて天を突く	愛知	小野 薫
日記買ふ余生の記録残したく	大阪	辻 昌子	初暦めくれば青きエーゲ海	東京	桜鯛みわ
いつもより少し分厚き日記買ふ	兵庫	山岸正子			